

「多くの人の命を救いたい」 生理学の父

いしかわ ひでづるまる
石川 日出鶴丸



選んだのは研究者の道

研究者か、病院の医者か。大学を卒業したら、どちらの道に進むべきだろうか。

将来の道を決めるとき、石川日出鶴丸さんの胸に多くの人々の顔が浮かびました。6歳のときに、腸チフスにかかり、一度は死にかけたぼくを一生懸命に看病してくれたおばあさまや、ふるさとの白石村の人々。

「男子たる者、大きな志をもたなければならぬ」と教えてくれた父。

ぼくは、多くの人々のおかげで、今、生きているのだ。その人々に報いる人生を歩みたい。

日出鶴丸さんは、深く考えました。

お父さんのように医者になって目の前の病人を治すことも大切な仕事だ。でも、医学の研究を続ければ、もっと多くの人々を助けられるはずだ。



いよいよ将来の道を決めるときだ。
お兄さんの言う通り、病院の医者になれば苦勞をかけた家族に恩返しはできる…。
でも、ぼくは大学の研究室に残って多くの人の命を救う研究を続けたい…

17人兄弟の五男として、
代々続いたお医者さんの家
に生まれたそうだよ。

子どものころから、
一生懸命勉強した
んだって。

石川日出鶴丸さんは、
日本では新しい分野
だった生理学（体の
つくりや仕組み）を
研究した人です。



石川日出鶴丸さんのミニ年表

西暦	年齢	
1878年		射水郡小白石村(現在の小杉町)の医者 <small>いしや</small> の家に生まれる
1888年	10歳	父が亡くなる
1903年	25歳	東京帝国大学卒業
1904年	26歳	京都帝国大学医科大学助手になる
1908年	30歳	ドイツ・ゲッチンゲン大学に留学する
1911年	33歳	留学を終えて帰国し、京都大学で研究に励む
1914年	36歳	『石川生理衛生教科書』を編む
1947年	69歳	亡くなる

石川日出鶴丸さんは、京都大学で生理学を研究し、多くの学者を育てた名教授です。



小杉町の生家せいけに立っている日出鶴丸さんの生誕碑せいたんひを見学する小杉町立金山小学校6年生のお友達。

研究！ 研究！ の毎日

考えに考えて、兄の願いをふり切つて、日出鶴丸さんは研究者の道を選びました。京都帝国大学で、生理学研究という新しい学問の道を歩みはじめたのです。

「エン犬いぬの工胃いが分からんと、次の実験結果は、なん分からん。だから、このエシカワヒデツウヒデツウルマルの研究室では、実験記録をまじめにとるよにせんとあかんぞ」

「エンナの工？……なんだ、それ？」

「今、石川先生は、なんておっしゃったんだ？」

「ぼくにもさっぱり分からないよ。先生の言葉、何語なにごだろう？」

学生がくせいの声が教室をひそやかに走っている間にも、日出鶴丸教授の授業はどんどん進んでいきます。学生たちのノートはまっ白。言葉のなぞは深まるばかりです。

実は、日出鶴丸さんの授業には、しよつちゆう富山とみやま弁が出てきたのでした。学生たちは、聞き慣れない富山の言葉を理解するのりかいに、たいへん苦労くわうしたそうです。

日出鶴丸さんの研究室では、こんなことも起きました。机つくえにずっと置いてある時計やさいふは、誰のたれだろ

「きつと石川先生のですよ。先生は、今書いていらつしやる論文ろんぶんで頭がいつぱいいっぱいです。そんなときは、身の回りのことが何も見えなくなるらしいのです」

「じゃあ、昨日から行方不明のぼくの靴も、先生がきつと間違えられたんだ！」

学生たちは、はじめは日出鶴丸さんのことを「ちよつと変わった先生」と思っていましたおもいが、だんだん研究熱心けんせつねしんで、高い知識ちしきをもっているすごい先生だと思つようになりました。

教授だからといっていはず、学生にやさしく話しかけたり、ときには体をいたわつたりしてくる日出鶴丸さんを、学生たちは尊敬するようになったのです。

見かけより研究が第一

いつでも研究第一の生活を送っていた日出鶴丸さんは、警官けいさんにあやしい人物と疑うたがわれたこともありました。

実験じけんに使うプランクトンぷらんくとんを採りに行つて沼ぬまに落ちぬれネズミのようにうすよくれた服で町を歩いていて、警官に呼び止められたのです。

「私は、京都帝国大学で研究をしている者です」「うそをつくな。大学の先生がそんな姿すがたで出歩くのか」



日出鶴丸さんの熱心な授業は、学生たちに人気がありました。(小杉町立金山小学校6年 鈴木智也さん)





日出鶴丸さんと呼び止めた警官は、日出鶴丸さんが大学の先生と知ると、着替えの世話をしたり、家まで送ってくれたそうです。日出鶴丸さんは、その親切をずっと忘れませんでした。
(小杉町立金山小学校6年 竹中諒成さん)



中学校、女学校、師範学校(先生になるための学校)で使われた『石川生理衛生教科書』。内容が正確で、分かりやすいと評判でした。この教科書により、石川日出鶴丸さんの名は全国的に広まりました。

警官は、日出鶴丸さんの言葉を全く信用してくれませんでした。大学に問い合わせて、本当だと分ると、改めてびっくりしたそうです。

日出鶴丸さんは、自分が人にどう見られていても平気でした。

ふだんは着物の二重マントをはおり、首によこれた手ぬぐいをマフラー代わりに巻いていました。有名な人に会うときには、洋服を着て行きましたが、その上着のポケットが破れ、白い裏地が見えていたそうです。

それでも、日出鶴丸さんは、自分の姿をはずかし気とは思っていませんでした。

日出鶴丸さんにとって大事なことは、着る物や見かけではなく、研究や学問に熱中することでした。生理学という学問の道で、ただひたすらに情熱をもって努力することが、日出鶴丸さんにとって一番の生き方だったのです。

さまざまな学問への愛情

1908(明治41)年、30歳の日出鶴丸さんは、文部省留學生に選ばれ、ドイツへ出発しました。留学先のゲッチンゲン大学では、刺激生理学という学問の研究に打ち込みました。

言葉も食べ物も違う外国での生活は、ときに苦し



日出鶴丸さんは、いろんなことに興味をもち、さまざまな研究者と話をするのが好きでした。
(小杉町立金山小学校6年 北山直樹さん)

いこともありませんでしたが、日出鶴丸さんは努力を続けました。

その結果、有名なフエルボルン教授から最高のほめ言葉を贈られるまでの成果をあげたのです。

「わたしのあとを継ぐものは、遠い国から勉強をしにきた日本人のイシカワだ。彼の研究の熱心さは誰よりもすばらしい。イシカワには、今後も努力を続け、良い研究をしてほしい」
ああ、ついに自分の努力が認められたのだ！

日出鶴丸さんは、研究者として、熱いものがこみ上げてくるのを抑えられませんでした。

日本に戻った日出鶴丸さんは、さらに学問に情熱をかたむけました。

留学先で学んだロシアのパプロフ教授の有名な条件反射の研究を日本に紹介したり、植物の神経について新学説を発表したりしました。

また、しんきゅう術を科学的に研究するなど、日出鶴丸さんの学問の勢いは、とどまるところを知りませんでした。

日出鶴丸さんのエネルギーが満ちあふれる研究室は、いつしか「人類館教室」と呼ばれるようになりました。

研究室には、動物学者、植物学者、心理学者、人類学者、哲学者など多くの人が出入りし、互いに刺



「パプロフの条件反射」：パプロフの条件反射とは、ベルを鳴らしてから犬にエサを与えていると、そのうち、ベルを鳴らただけでヨダレが出てくるというものです。人間にも同じような条件反射のしくみがあります。たとえば、梅干を見たらどうなるでしょう...？ 口の中ですっぱさがこみ上げてきますね。

子どもたちの感想

小杉町立金山小学校6年生の
お友達のご感想です。

子どもの頃から、寝る時間を削って勉強をしていた努力家の日出鶴丸さんを尊敬するなあ。
(折坂さゆみさん)

ドイツの先生が後継者にとつづつほどの人が、小杉町から生まれるなんて僕らの町はすごい!!
(長谷公義さん)

教授になっても、富山弁で講義した日出鶴丸さんは中味を何より大切にしているんだなあ。
(野愛佳さん)

4時間しか眠らず、『石川生理衛生教科書』を一生懸命書いた日出鶴丸さんはがんばりやだ。
(酒井亜由美さん)

しんぎゆう術を科学的に説明し生理学一筋に生きた日出鶴丸さんは、えらいしカッコいい。
(松井一央さん)



ドイツ留学時代の日出鶴丸さん。
(小杉町立金山小学校6年 内田千佳さん)

未来の子どもたちのために

『石川生理衛生教科書』という中学生向けの教科書を作ったことも、日出鶴丸さんの成しとげた大きな仕事の一つです。
子どもたちが、体のつくりや仕組みを勉強して知識を身につければ、病気やけがを予防することにつながるだろう。
また、この教科書がきっかけで医者への道へ進む子どもが増えるかもしれない。
多くの人のいのちと健康を守りたいという、日

激を受け研究へのエネルギーを得ていったのです。
日出鶴丸さんは、どの分野の研究にも興味を示し、学問に情熱をかたむける人を、大きな愛情で包んだそうです。
事実、日出鶴丸さんのこの研究室からは、すぐれた多くの研究者が育っていきました。

出鶴丸さんの思いが込められたこの教科書は、文章が分かりやすく、説明の絵図が細かく正確に描かれています。

そのうえ、年々手が加えられ、さらにすぐれたものになっていったため、ほとんど日本中の中学校で使われ、ベストセラーになりました。

その後、日出鶴丸さんは自分で決めた研究の道を、わき目もふらず、いっしょに歩きました。

日出鶴丸さんの人生。
それは、学問の世界に美しい努力の花を咲かせた一生だったのです。

この教科書は、未来の子どもたちへの大きなプレゼントですね。

ぼくたちのおじいちゃんやおばあちゃんは、日出鶴丸さんの作った教科書で、勉強したんだ。

日出鶴丸さんは、子どもを思い出して、この教科書を作っていたのかな？

石川日出鶴丸さんが生まれた20年後、日出鶴丸さんと同じように、「人の命や健康を守る仕事をしたい」と決心した女性があられました。女医がとてめずらしかった時代、たいへんな苦勞をして夢をつかんだ女性、それが佐藤やいさんです。

